

【研究協議】

研究の視点

(1) フォークダンスを題材に取り上げ、踊りの由来を調べたり、衣装を工夫したり、オリジナルの動きを加えたりすることで、生徒が意欲的に学習に取り組むことができたか。

【教材解釈力】

(2) 生徒一人一人が課題を認識してより意欲的な学習に取り組むのに、評価基準法（ルーブリック）は有効であったか。【授業実践力】

自 評

- 今回の授業でフォークダンスを行うにあたり、フォークダンスの基本ステップにアレンジを加えて創作的な要素を入れてもよいのか悩んだが、生徒たちが生き生きと授業に臨んでくれた。今回の活動を2年生での現代的なリズムのダンスにつなげていきたい。
- 今回の単元構成で重要になったのが、評価基準法の活用である。作成にあって4段階にするのか3段階にするのか、また、どのような表記にするのか試行錯誤を繰り返した。生徒と共に作り上げる過程を大切にしながら作成をした。評価基準表を発表会当日だけに活用するのではなく、何度か活用することによって、他の班がどのように評価してくれているのか生徒たちは嬉しそうに分析できていた。また、評価の低いところを見て、改善しようとする課題解決学習もできていた。

グループ協議

- 大変運動量の多い授業であった。授業前から自分たちから意欲的に練習に取り組んでいる様子が印象的であった。
- ウォーミングアップでジャンケンをしたり手をつないだりと、生徒たちがとても表情良く活動していた。この活動がダンスの楽しさにつながっていたと思う。
- 衣装の工夫を取り入れたことによって、カラーごとにテーマが決められ、とても発想豊かな発表内容になっていた。他の班とは違うものを創作しようとする独創性も感じられた。
- 評価基準表を活用した評価の仕方によって、生徒たちはどこを改善していけばよいのかが明確化されており、課題解決に向けて取り組みやすかった。発表会後の感想も、ルーブリックの内容に沿った感想の仕方がされていたため、有効に活用されていることが分かった。
- 生徒たちの心が一つになっており、見ている側もとても楽しかった。生徒たちは、意欲的な笑顔で活動できていた。普段の教育活動の賜物であり、地域にも愛される生徒の育成につながっていると感じた。
- 普段の授業でも気軽に使えるICT機器の活用も必要ではないだろうか。生徒の活動をフィードバックでき、課題改善に役立つ活用の仕方が理想ではないかと思う。

武道・ダンス授業づくり研究会が発足されたのは、現行の学習指導要領で武道・ダンスが必修化されたことがきっかけである。必修化された背景には、選択制を導入する前に多くの運動を体験して各領域の特性や面白さに触れること、改正教育基本法のなかで我が国固有の伝統と文化に触れることが重視されたことがある。今、次期学習指導要領に向けて議論されているが、そこでは、学びの質を高めていくことが重視されている。生徒たちが、主体的・対話的な学びを通してより深い学びを学習することが求められており、今日の授業はまさしくアクティブ・ラーニングの視点に立った授業提案であった。

今回、先生方と授業構想する際に考えたことは、まず題材を何にするかである。「踊りの雰囲気が良い」「踊りがリズムカルである」「振りがあまり複雑でない」といった点を踏まえ、学習指導要領解説で紹介されているドードレブスカ・ポルカに決定した。本単元では、生徒たちが主体的・対話的に学習に取り組むために、ダンスの成り立ちを調べたり、振りや隊形をアレンジしたり、衣装を作成したり、そして、最後に発表会を設定し、ダンスの授業がひとつの舞台として演出されていた。このフォークダンスで学習したことが、今後の現代的なリズムのダンスや創作ダンスにもつながっていく。

今回の実践では、「学習評価の充実」も図られていた。指導したことを評価し、評価したことを指導に生かすという指導と評価の一体化は、深い学びには不可欠である。今回の授業では、評価指針（ルーブリック）の活用によって学びの質を高めていくことが提案された。ルーブリックは、評価のための評価ではなく、改善を図るために行われる評価である。フォークダンスをアレンジしたり、観る視点をルーブリックによって教師と生徒、生徒同士が共有したりするなどしていた。教師はルーブリックのなかに指導内容を忍ばせ、生徒たちはルーブリックを通じて自らの踊りの改善を図っていた。

以下は、本時の授業の流れに沿って気になったことをコメントする。

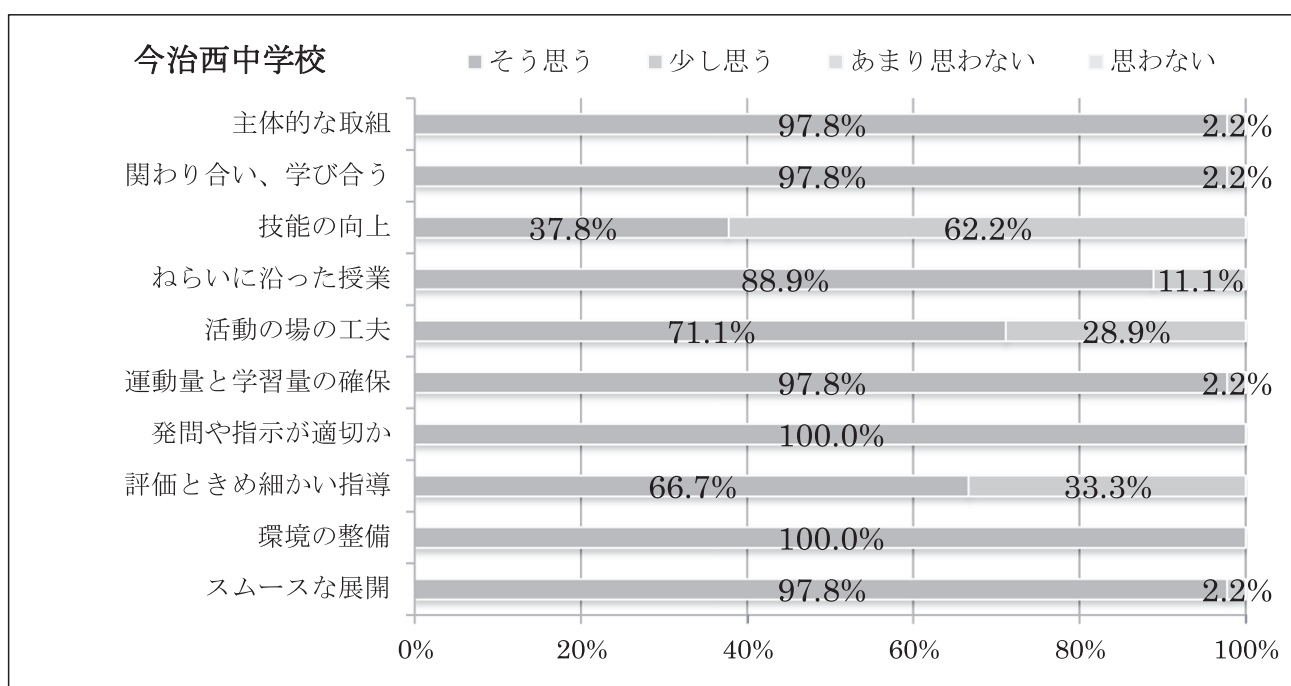
まず、前回の学習の復習から授業が始まった。授業というのは、単元の最終（ゴール）に向けて展開するものである。単元の中の一つ一つの授業がつながるためには、前時を振り返ることには意味がある。

授業の導入であるウォーミングアップでは、心も体もほぐす活動が行われていた。じゃんけんで偶然性を楽しむことによって仲間との交流を図りながら、最後は全員で一つの輪になって踊ることで一体感を感じながら踊っていたのではないだろうか。

今日の授業では、本時の目標が明確に示されていた。体力・運動能力等の調査結果では、愛媛県の特徴として、体育授業での目標提示に課題がみられていた。教師が目標を明確に示すことで、生徒たちが自己の課題を焦点化させ、目標達成のために意欲的に活動できるようになっていたと思う。また、ルーブリックを用いて前時で評価し合ったものを確認する場面があった。そのことにより、自分たちの本時の課題が明確になり、学習の意欲にもつながっていた。課題改善だけでなく、自分たちの班の特徴を捉え、良いところをさらに伸ばしていくという考え方もある。どこに焦点を置くかで取り組み方もいろいろ工夫できる。

そして、発表会后、各グループを教師が適切に評価していた。生徒が感想を発表した後に教師の評価を伝えることで、生徒が気付かない点や教師が伝えなかったことを補足できていた。ルーブリックも効果的に活用できていたが、鑑賞の場面で、見ることと書くことを同時に行うと学習が複雑になる。評価する観点を絞り、発表をしっかりと観賞してから記入するとよい。1年生のダンスの導入段階となる今回の単元で、終わった後に「またやってみたい」「もっとやってみたい」と興味関心をもっているかが重要である。そういった点で、今日の授業はダンスのおもしろさに触れ、ダンスの魅力にたっぷりと浸る子どもたちを観察することができた。それは、教材研究の積み重ねがあったからといえる。今回の授業を他の地域や学校にも波及させ、多くの学校でよりよい体育授業が実践されることを期待したい。

「アンケート結果」 45名回答



平成 28 年度中学校「武道・ダンスづくり研究会」(今治西中)

アンケート集計 (ダンス : 45名)

I 授業参観者によるアンケート	(そう思う)	(少しそう思う)
1 生徒は主体的に学習に取り組むことができていた。	4・・44名	3・・1名
2 生徒同士で関わり合い、学び合う学習ができていた。	4・・44名	3・・1名
3 技能の向上が見られた。	4・・17名	3・・28名
4 本時のねらいが明確でねらいに沿った授業が展開されていた。	4・・40名	3・・5名
5 活動の場の工夫ができていた。	4・・32名	3・・13名
6 運動量や活動量が十分に確保されていた。	4・・44名	3・・1名
7 教師の発問や指示の言葉が適切であった。	4・・45名	
8 適切な評価がなされ、個に応じたきめ細かな指導がなされていた。	4・・30名	3・・15名
9 学習環境 (ルーブリックの活用) が整備されていた。	4・・45名	
10 学習習慣が身に付き、スムーズな学習展開がなされていた。	4・・44名	3・・1名

II 公開授業や研究協議などからどのようなヒントを得ることができたか。

- ルーブリックの活用が良い。
- 生徒が主体的に取り組むための工夫とフォークダンスから入るのがよかった。
- フォークダンスの授業に発展性があることやアレンジを取り入れた工夫があった。
- 指導と評価の一体化の大切さを感じた。
- ルーブリックを生徒とともに作ったことに意義があった。
- 言葉掛けの大切さを感じた。
- 単元計画の大切さを痛感した。
- アクティブ・ラーニングの方向性が見られた。
- 限られた時間の中で表現力を生かした工夫が見られた。
- 工夫された教材・教具、ウォーミングアップの工夫、運動量の確保、学習規律の大切さを痛感した。

III 指導助言では、どのような内容が参考になったか。

- アクティブ・ラーニングの在り方
- 授業後の興味・関心の大切さ
- 評価基準のすり合わせの重要性
- 評価の在り方
- 指導要領の改訂について
- 指導と評価の一体化
- ダンス授業の新たな指導
- 生徒が主体的に授業を受けるための授業づくりの重要性
- 授業づくりの見通しを立ててPDC Aサイクルの再確認
- 生徒の実態に合った教材選び
- フォークダンスの教材としての捉え方
- ほめることの大切さ
- 学び合いの機会の作り方
- 評価基準の作成方法

- 一つ一つの活動の大切さと日々の授業の大切さ
- 子どもの関心の引き出し方

IV 評価基準表（ルーブリック）の成果と課題

<成果>

- 子どもが主体的に学ぶ意識付け、課題解決への参考になる。
- 課題が明確になった。
- ルーブリックを生徒とともに作っているので、評価しやすい。
- 生徒がルーブリックを把握できていた。
- 他からの評価を自己の改善に生かせる。
- 評価の観点の表現の仕方を工夫できていた。
- 前時に一度評価しているのでスムーズに活動できていた。
- 主体的に取り組む生徒の育成につながる。
- 生徒が授業のねらいを把握できていた。
- 友を認め合う場ができていた。
- 生徒が単元を通して変容していく様子を捉えることができた。

<課題>

- 基準作成の難しさ（具体的な表現の難しさ）がある。
- 他の運動領域で活用できるか考える。
- 生徒の評価と教師の評価のすり合わせをする。
- 評価基準の段階を学習内容に照らして考える。
- 上級より上の評価があると、さらに意欲が高まる。
- 子どもたちが評価しやすい工夫を取り入れる。
- 作成のタイミングと時間確保が難しい。
- 作成のための手順の複雑さがある。
- 3年間を通した活用を考える。
- 生徒の実態や年による変化が必要である。
- 評価項目を簡素化する必要がある。
- 同時に複数の評価をしなければいけない。
- 見つけた課題を手直しする時間が少ない。

V 「授業づくり研究会に参加して」

- すばらしい授業で研修の機会として大変参考になった。
- 授業展開のみでなく、声かけや環境についても大変参考になった。
- フォークダンスで、あそこまで汗をかく授業は初めてだった。「指導と評価の一体化」につなげていけるようにしたい。
- たくさんの提案でよい刺激になった。
- 普段の授業から集団行動や授業への取組がきちんとされていることを感じた。何より子どもたちの意欲的な姿勢がすばらしかった。
- 指導力の向上に向け続けていってほしい。
- よく練られている指導案と授業を見ることができ、とても参考になった。
- 中1でこんなに考え、活動できることに感心した。この経験を高校でも発展させていきたい。

第1学年 F 武道 「柔道」
「受け身の指導」

伊予市立伊予中学校
指導者 T1：教諭 青野 藤壽
T2：教諭 仲神 正人

日時 平成28年10月31日（月） 5校時13：25～14：15
場所 伊予中学校体育館（柔道場）
単元名 武道（柔道）

1 単元目標

- (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。
相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開することができる。 【技能】
- (2) 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、禁じ手を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。 【態度】
- (3) 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、各自の課題に応じた運動の取り組み方を工夫する。 【知識、思考・判断】

2 指導観

- (1) 生徒について
本校は小学校と隣接しており、小学生時代から朝のランニングや放課後の部活動を目の当たりにしてきている。そのため、駅伝や部活動の結果に興味を示しているとともに、運動に対する関心が高い。1年生は男子33名女子29名計62名で、武道の授業は剣道と柔道の選択制で、3年間学習することとしている。本年度は、男子10名女子5名の生徒が柔道を希望している。体力テストでは、持久力は全国や県平均を上回っているものの、瞬発力や敏捷性が低い。
- (2) 題材について
柔道は、練習の積み重ねによって瞬発力、持久力、調整力などを養うことができる。また、相手と直接組み合って格闘的な対応をする対人的競技である。各種の技を習得する中で楽しさや喜びを味わうことができるとともに、互いに競技規定を守り、相手を尊重し、公正な態度で安全に学習することが大切になる題材である。
- (3) 指導について
柔道は中学校で初めて学習する内容であり、けがなどの事故への対策が重要である。そこで、生徒の安全意識を喚起するために、禁止事項や約束事の徹底、ルールやマナーを守る態度の育成を図りながら、確実な受け身の習得を目指したい。また礼法など、柔道の伝統的な考え方などを理解させ、相手を思いやり、仲間と一緒に活動することを通して、柔道の特性や楽しさに触れさせたい。

3 単元及び学習活動に即した評価規準

	運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柔道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ○ 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ○ 分担した役割を果たそうとしている。 ○ 仲間の学習を援助しようとしている。 ○ 禁じ技を用いないなど、健康・安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 技を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ○ 課題に応じた練習方法を選んでいる。 ○ 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。 ○ 学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 投げたり抑えたりするなどの攻防を展開するための相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 柔道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 ○ 伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ○ 技の名称や行い方、関連して高まる体力、試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。
学 習 活 動 に 即 し た 評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none"> ① 相手を尊重し合うための作法、所作を守ろうとしている。 ② 仲間の練習相手を引き受けるなど、学習課題の解決に向けて仲間の学習を援助している。 ③ 危険な動作や禁じ技を用いない、他の組との間隔を十分とって活動するなど自己や仲間の安全に留意している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① よりスムーズに行えるための運動のポイントを見付けている。 ② 分担した役割に応じた協力の仕方をグループ内で行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 正しい姿勢、組み方から崩し、体さばきなどの基本動作と受け身を関連づけて行うことができる。 ② 投げ技では約束練習で相手の動きに応じた基本動作から、膝車、支え釣り込み足、体落とし、大腰ができる。 ③ 抑え技では、けさ固め、横四方固め、上四方固めの入り方や応じ方を身に付け、自由練習やごく簡単な試合で抑えたり、返したりする攻防ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方について学習したことを言ったり、書き出したりしている。 ② 学習した技の名称やそれぞれの技を身に付けるための技術的なポイントについて、学習した具体例を挙げている。

4 指導と評価計画										
時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	学習計画を確認する	基本動作と受け身			新しい技を習得し、動きの中で技をかけた後、受け身をとったりすることが出来る					学習のまとめをする
0				○用具、柔道衣等の確認	○挨拶	○礼儀	○本時の学習の確認			
10	オリエンテーション 学習の進め方 特性や成り立ち 伝統的な考え方 柔道衣の扱い方 帯の締め方 学習計画とルール	○姿勢 ・自然本体 ・左自然体 ○基本的な組み方(右組) ○進退動作 ○崩し ・前・右前隅・左前隅・ 右・左・後ろ・右後ろ隅・ 左後ろ隅 ○体さばき ・前さばき・前回りさばき		○準備運動 ○補助運動 ○崩し・体さばきと受け身						あいさつ 準備運動 技の発表 整理運動 学習のまとめ
20	柔道衣の扱い方 帯の締め方 学習計画とルール			○抑え込みの条件 ○抑え込みの発見						
30	準備運動 補助運動 グループ編成			○固め技 ・けさ固め ・横四方固め ・上四方固め						
40		○受け身 ・後ろ受け身 ・横受け身 ・逆轉受け身 ・前受け身								
50				○整理運動	○本時の振り返り	○次時の連絡	○挨拶	○片付け		
指導内容		○相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ること(授業開始終了時の所作) ○健康安全に留意すること	○仲間と協力しながら練習すること							
技能					○けさ固め、横四方固め、上四方固めの入り方・応じ方 ○固め技による攻防					
態度										
知識 思考 判断	知○特性、成り立ち 知○伝統的な考え方	知○技の名称や行い方 (基本動作と受け身)	知○技の名称や行い方(固め技の基礎知識) 思○行い方のポイント 知○技の名称や行い方(けさ固め、横四方固め、上四方固め)	知○相手の尊重し、伝統的な行動の仕方を守ること(相手に対する礼の所作) ○固め技による攻防	知○技の名称や行い方(膝車、支え釣り込み足、体落とし、大腰) 思○役割に応じた協力の仕方 思○行い方のポイント					
関係 思考 判断				③観察	①②③観察					
評価 知	①学習カード				①②観察 ①②学習カード	①②③観察 ①②学習カード	②観察	③観察	①②③観察	